

「縁」と「絆」

会長 鈴木 龍成

岳精流日本吟院 創流三十周年全国吟道大会が、六月二十四日盛會裡に開催され、多くの参加者が熱い感動を味わった一日でした。宗家のお話によれば、当日、会場のあちこちで会員、役員（当千代田岳精会は「昼食担当」でした）が情熱的に大会運営に携わる姿

岳精流日本吟院

ちよあ

第 2 9 号

平成 1 9 年 9 月

千代田岳精会弘報

平成十九年度岳精流指標

吟 楽

に「しられた来賓の先生方から「岳精流の組織力はさすが」との賛辞を頂いとのこと、私ども全会員もって銘ずべし」と言うところでしょうか。

大会運営はもとよりですが、当日の我が千代田の合吟の出来栄は、男女とも見事なものでした。なかなか一堂に会しての練習は出来ませんでしたがいざ本番“に向かつて心が一つになった結果でしょう。

このような経験から、私は「絆」の力と言うものをつくづく感じております。そもそも吟を始めるきっかけ「縁」は、人によってそれぞれです。当会が「千代田教場」としてスタートした当時は、明治生命OBの人縁の輪が広がった結果としての吟友拡大でした。いわば職域の縁と言えましょう。そこから発展していった色々な縁、学校の同窓、会社のOB会、知人旧友等々輪の拡大は新たな吟縁の結びつきを実現して参りました。こうして結ばれた吟友の輪は、強い「絆」を形成してきていると思います。吟を楽しむ、吟に精進する、そして折に触れての交流の機会を楽しむ、すべて「絆」の堅さ、温かさを醸成してくれるものだと思います。かつて横山岳精家元が「語録」のなかで、杜甫の「貧交行」（教本天二〇七頁）を引用され、「金の付合いは短かいが、心の付合いは長い、吟の付合いは心の付合いだ」と論されました。管仲と鮑叔の貧しい時の交わりは、死ぬまで続いたという逸話を詠った右の

漢詩は、家元のお言葉とともに、私共に「絆」の大切さを教えてくれていると思います。近づく「温習会」が、二〇〇名祭り“に相応しく吟友の賑々しい集いになるよう、各教場で分教場や拠点づくりが積極的に展開されており、あちこちに新しい縁で結ばれた新しい吟友の絆が出来つつあります。大変喜ばしいことです。

八月初めの厳しい暑さが続いた一日、吟友Hさんのお世話で、明治神宮神域の森での「鎮守の森チャリティコンサート二〇〇七」に行く機会を得ました。昼間の猛暑から開放されて、涼やかなそよ風を野外の芝生の観客席で感じながら、気鋭の若手音楽家（ピアノ・三味線・ギター・ボーカル）による演奏を聴くことができ、至福の一夕でした。主催者の言によれば、神宮の森は八十余年で作り上げられたとのこと、その歴史は「自然との共生」「自然との絆」の大切さ、力強さを教えてくれているようです。「絆」を結び、固める日々でありたいと思います。



星野久山（清水）

創流三十年全国吟道大会

格調高く華やかに凜と開催



今年は流統が創設されて三十年、合わせて横山岳精家元の卒寿をお祝いする全国大会は、千七百名の吟友が集い六月廿四日川崎市教育文化会館で開催された。

吟界最長老のお一人である家元を祝い、超一流のご来賓の格調高い吟詠、華麗な剣詩舞に、参加者は一度にこれだけ接する得難い時間に満足し、優勝吟詠、構成吟、合吟に吟浸けの一日を堪能していました。

本部役員や近辺会員が役割を持って担当した大会は、ご来賓諸先生方より品格を感じさせる見事な組織的な運営に大きな賞賛の声が有ったと後で伺いました。千代田の役割昼食担当の、丸の内第一、東陽町、丸の内女子の皆さんご苦労さまでした。

全国吟道大会に初めて参加

丸の内第二 菟場 直一

大先輩高橋辰山さん（学校、会社の先輩）の紹介で五月に入会しました。幸運にも、入会して数回の指導を受けた頃創流三十周年の記念大会に参加することが出来、大変嬉しく思い又感謝しております。いささか緊張気味で会場に入りましたが、想像以上に吟友の方が多いのに驚きました。

開会となり、第一部の合吟が始まりましたが、舞台の皆様から一体となつて発せられる合吟の迫力に圧倒されながら聴き入っていました。続いて第二部に入り、次から次へと吟じられる詩吟を耳にして、特に先生方の個性豊かな味のある詩吟を拝聴することが出来、日本の伝統芸道の良さを感じると同時に感銘を受けた一日でした。この大会を「ICレコーダー」に録音することが出来、時々思い出しながら聴いております。

これから、詩吟を趣味と言えるように、また、人生の友となるように、長く続けていきたいと思ひます。今後ともご指導の程、宜しく願ひします。

創流三十周年全国吟道大会に参加して

ハザマ教場 浦谷 政夫

昨年十月の入会にもかかわらず、全国吟道大会に参加できましたことは誠に光栄でありました。

岳精流日本吟院の盛況振りを実感していなかった私にとって、大会当日の朝、JR川崎駅から会場に参集される吟友の皆さんの多さにまず仰天し、会場に入るなり、その盛大さに圧倒され

ました。大会の合吟が進行するにつれ会の秩序と統制のもとでの全国の吟友の活躍振りがつぶさに感得できました。北は札幌、南は沖縄から参加の方々の力強い吟詠を聴き、全国に志を同じうする人々の居られることを知り、感慨深いものがありました。

創流三十年という記念すべき大会に会場に近い地理的な利があるとは言え入会早々の私まで参加させて頂きました。これは、全くの幸せでありました。

諸先生、各地岳精会長の吟詠をテープにとらせて頂きました。また会場で横山岳精家元の吟詠大全集三巻を購入出来ました。これ等のテープにより、独習を重ねたいと思ひます。

もし仮に、大会が遠隔地で開催されましても、宿賃、旅費を償えるほどの力をつけて、参加したいと思っております。皆様のご指導、ご鞭撻を願ひやみません。

研修部門歌唱研修が発足

研修部門組織に設立枠として残されていた歌唱研修が六月より発足し、詩歌研修、演奏研修、剣詩舞研修と四体制となりました。七月十七日、廿八名が参加し第一回が開催され「千の風になつて」を合唱し、大変好評でした。

毎月第三火曜日一五時～一六時三〇分に開催されます。リーダー耳塚副会長、アドバイザー山口会長補佐。

「吟友の輪」拡大キャンペーン 各教場で大きな成果

一月より、会員二〇〇名を目標とし、十月六日の温習会を達成目標として取り組んでいます。が、教場見学会からの入会実績が続いて、前号に紹介の神楽坂、日暮里に開設の吟詠クラブで夫々五名の新人会員と言う目覚ましい成果がありました。

江戸の昔から、花街であった神楽坂は、その雰囲気とモダンさを持っていた魅惑的な街です。新会員の方々の職業、趣味それぞれ地元に対応しく個性に溢れています。隔月に発行されているタウンPR小冊子「かぐらむら」の八月一日号に「『神楽坂詩歌吟詠クラブ』が神楽坂で詩吟！と取材され、ただいま会員を募集しています！」と、写真付きで紹介されました。

六月より開設の日暮里では、拠点長の本多弘山・凜泉ご夫妻の地元の交遊関係へのお誘いで、発足の日には十三名もの方々が出席されその中から五名の方が、入会されました。

参加しやすい地元に拠点と言う、地域型教場としては草加、鎌ヶ谷、銀座に続き、これまで繋がり少なかつた場所でのスタートに今後の展開が期待できる大きな意味があります。

八月一日現在会員数は百九十三名と一月一日対比で廿四名の純増加となっています。

「田最高顧問作詞編曲の『千代田岳精会賛歌』（女子部用）」が出来ました。

一月発表の「千代田岳精会賛歌」と共に、諸行事で歌うこととなります。

千代田岳精会賛歌

一、歴史は古く 燦然と輝く伝統 身に負いて

轟きわたる 吟聲の響きを胸に 進む秋

未来の空に 研する 噫 噫

我が千代田に誇りあり

二、東京の空に 翻る 緑翠の旗 仰ぎつつ

月に嘯き 花に酔う 集える我ら 一心に

斯界の雄と 歎呼する 噫 噫

我が千代田に栄えあれ

千代田岳精会賛歌（女子部用）

一、真の姿 かくこそあれと 富士ヶ嶺高く 紫匂う

善き師 善き友 集い結びて いざいざ詠わん 美し千代田

二、墨田の流れ 朝に夕に 花の香漂い 月影宿し

幸ある学び舎 幸ある我ら いざいざ詠わん 美し千代田

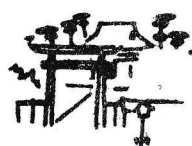
『私の心に残る一詩』その十五 丸の内第一 稲垣 藤風

秋 思 許 渾

琪樹西風枕簟秋 楚雲湘水憶同遊
高歌一曲掩明鏡 昨日少年今白頭

想い起せば二十五年前、吟の音声の魅力に引かれ地元の岳心流の女の先生に入門、吟の手ほどきを……。当時はコングタ―無く、笛で音を確かめ昔流の厳しい指導を受けました。十一年目に先生が亡くなり、平成五年千代田岳精会に入会して十四年。アツと言う間の歳月です、声も衰えました。今は五本がやっどです。

平成十四年、生まれも育ちも神田、江戸っ子の橋本静泉さんが入会、もう節調も正確に身に付け独吟で少し固くなる以外もう私を凌ぐ現状に嬉しく、楽しみです。もう八十五歳、何時まで続けられるかしらと健康を祈りながら吟友と共に吟楽に浸って居ます。



▽昇伝者追加

前号の昇伝者紹介で次の方が漏れておりました。お詫びいたします。

初伝 神田 小林 公泉

漢詩 (十)

丸の内第二 八田 玉山

送元二使安西 王維

渭城朝雨浥輕塵 客舍青青柳色新
勸君更盡一杯酒 西出陽關無故人

盛唐の自然派の第一人者として「王孟」と称され、李・杜とも並べられる王維の代表作として、送別の歌として樂府詩集に「渭城曲」として載せられており、「陽関曲」とも言います。

第四句を三度反復して唱ったので、広く世に「陽関三疊」として知られています。(但しどの部分を三疊するかには異説があります)

「語釈」※元二とは排行と言い、一族兄弟の二番目、※安西は今の新疆省吐魯蕃の近くの都護府、※渭城は秦の都咸陽にあり、西安より黄河の支流渭水を北へ渡った位置にあり、西域への出発地、※陽関は甘肅省西方、敦煌の西南方、新疆省との境(玉門関の南に位置するので陽関と言ったという)※故人は親しい友人

「意釈」言葉の意味が判れば、詩文に難しいところは有りません。危険も多く遠い西域へ使いする友人との別れを惜しんで、前夜の送別の宴のまま、渭城まで同行してきた王維が、通り雨で柳の緑が目に見え、清々しい酒亭で別れを惜

しんで更に別宴を続けようと勧めている情景が目の前に浮かびます。

「声を出して読みたい日本語」斎藤孝に「陽関三疊の詩」と出ています。

王維は言葉で描く風景画家だ、南画の祖と言われる絵の達人である。音楽の才能もあり琵琶も上手かった。音楽を聴いて情景が浮かんだら、文章から匂いや色彩を感じるのはいは楽しい。感覚と感覚がつながる「共感覚」の経験は、世界を厚みのあるリアリティとして感じさせてくれる。単眼より両眼で見ることが奥行きが出るのと似ている。世界の意味を豊かにしてくれるのが芸術である。

この詩は、送別の歌として愛唱される定番である。元の詩は、最初の四行のみだが、詩吟の場合、終わりに二行が加わる。特に最後の一行は、三度繰返し吟ずるのが習わしで「陽関三疊の詩」と呼ばれる。繰返し吟ずること、別れの酒は一層肚にしみわたる。送別の時に詩を贈るという習慣は美しい。別れは、緊張感のある言葉を生み、その言葉は別れの時を祝祭にする。詩才は無くとも、せめて覚えている詩を朗読して別れの時を飾りたい。



剣詩舞研修 千峰流温習会へ参加

金子千峰宗家が東陽町教場に在籍され、剣詩舞研修の指導をお願いしている関係から、七月廿九日開催の千峰流温習会には、千代田から九名が剣詩舞で出演、また鈴木会長ほか十一名が吟詠で賛助出演しました。カメラ担当として八尾葉山氏も協力しています。

第五回千峰流研修会盛大に開催

剣詩舞研修リーダー
ハザマ教場 萩原 晴泉

七月廿九日(日)板橋グリーンホールで千峰流吟剣詩舞道大会が開催されました。他流派の宗家、家元を初め来賓を迎え、会員と合せて百名を越え、剣詩舞、歌謡吟詠、詩吟と出し物も豊富です。

この大会に、我が剣詩舞研修のメンバーに加えて鈴木会長、磯田、岩崎両顧問、城戸研修部門リーダーを初め東陽町教場より、耳塚教場長他大勢の皆様が応援を頂きました。

剣詩舞研修は発足して四か月、覚えたり花を添えました。

終わってからの懇親会は、一日の緊張から開放され楽しいひと時でした。多数の皆様、毎月第一・三曜日の剣詩舞研修への参加をお待ちしております。

『新会員紹介』

◇丸の内第二（日暮里吟詠クラブ）
山根 季子さん（八月入会）

習い事が好きで、長唄、三味線等と事に親しんで居りましたが、都合があつて休まれていた所です。昨年の温習会にも来て下さいました。家は紹介者本多凜泉さんの隣、教場に通うのも一緒に居られています。

柏原 恒子さん（八月入会）

何事にも熱心で器用な方で、レース編みはプロ級の腕前です。お父様が謡曲をなさっていたので詩吟にも興味を持たれていたので、本多凜泉さんがお誘いし入会されました。

泉 淳代さん（八月入会）

本多凜泉さんと青少年委員の同期で、頑張って来た仲です。明るく、楽しい方で、大きな病を見事に克服されました。思いきり大きな声を出して歌ってみたいと思つていたので、本多さんに入会しました。

小林 えつ子さん（八月入会）

子供さんのPTAで本多凜泉さんと一緒に長いお付き合い。人柄が良く、バイタリテイに溢れた方です。常に、前向きな行動されながら、周りを暖かく包み込む包容力の持ち主です。

田中 弥重子さん（八月入会）

小林えつ子さんのお友達で、お会いして親しくなり、偶然なことに日暮里の代表者本多弘山さんと小学校の同窓生と判りました。

何といつても、漢詩に深い造詣を持つておられ、これからが楽しみです。

◇東陽町教場
小谷野 弘子さん（七月入会）

お母さんの小林明泉さんのお勧めで入会。バレエで身に付けた優美なセンスを剣舞に転じて数年、今や剣舞界の若手スターとして大活躍。剣舞コンクールでの優勝も度々です。詩吟を本格的に自分で詠ずるのは初めてですが、上達は早いと思われ、まさに期待の若手新人です。

◇東陽町教場（神楽坂吟詠クラブ）
清水 珠美さん（七月入会）

三ツ井・勝村ご両人の紹介。地元神楽坂でアットホームなスナックを経営している上品なママさんです。かつては文学少女、今でも漢詩や短歌等に深い興味を持ち、早速詩歌研修会に参加された勉強家です。音感の良い吟で初回から単独飛行出来る程で期待されます。

外山 忠男氏（七月入会）

勝村さんの紹介です。税理士・社会保険労務士など沢山の資格を持つバリバリの経営コンサルタントです。多忙な日々から少し離れて、新しい趣味でも始めたら、と勧められて入会しました。吟声は八十も余の体軀から結構迫力があります。第一期生として大いに期待しています。

平岡 あいさん（七月入会）
三ツ井さんのお嬢さん。神楽坂吟詠

クラブ発足にあたり「鶴の一声」で入会しました。明朗闊達な奥さんで、詩吟は母、叔母がやっているので知ってはいましたが、自分では初めてのとのこと。三十歳を越えたばかりの若さに期待。神楽坂の新星。

三科 秀海氏（七月入会）

勝村さんの店の常連客で、地元で教育塾を経営しており、交友関係も広いなかなか奥の深い紳士です。一方大変な食道楽で美味しいものがあると聞くと飛行機で食へに行くという桁外れの通人です。詩吟は新挑戦の趣味、しっかり吟楽を味わってほしいと思います。

浅野 浩一氏（八月入会）

勝村さんの会社時代の上司で、今はゴルフ仲間の一人です。ゴルフ大好き人間で筋力トレーニングに毎日スポーツジムに通っているそうです。詩吟は昔少し経験があり、渋味のある低音がなかなかです。神楽坂の有力メンバーとして期待大です。

◇丸の内女子教場
森山 俊雄氏（八月入会）

教場長の弟さん。趣味の一つに加えてはと勧めて居りました。七月に一度見学した上でと顔を出し、漢詩と吟詠に心引かれて、無理に勧められたのではなく、自身で決めた即日入会届を出してくれました。コンダクター、詩歌研修会にも興味を示して居ります。

◇新宿教場

村内 ゆき子さん（四月入会）

上村芳泉さんの明治トレーナー時代の同僚。ご主人の介護で、長い間家を離れられなかった事情がありましたが、昔の仲間に会えると大変喜んでいきます。いつもニコニコと、おっとりとした人柄で囲りを楽しい笑いを振りまいておられます。温習会には着物で参加と張り切っています。

中島 俊彦氏（七月入会）

趣味の山の仲間、飲み会にと誘われ教場の見学会へ、狐につままれていたうちそのまま入会。東京生まれ六十六歳。長年の損保業から全日空（ゼンジツアキ）の毎日。そんな環境から歌は全く駄目人間が詩吟をやってみようかと言う心境に。以来カミさんやご近所に迷惑をかけつつ下手なりに大声で恥を掻くのもこれまた楽しである。

西脇 正彰氏（七月入会）

酒井帆船さんの会社での大先輩。長年絵を描く趣味をお持ちです。近年体力の衰えを感じておられ、詩吟が健康維持に効果が大きいと思いい入会を決められました。通常の話し声も、低音のハリのある声です。教場が、自宅の国立から乗替え無しで便利とおっしゃっています。

入住 章雄氏（七月入会）

山の仲間波治郁代さんに誘われて入会。趣味は他にテニス等。詩吟は腹の底から大きな声を出すので、快

感と感動を覚える。自分に適した声の本数で吟じられるので、声の出ない不安は解消。橋本・酒井両先生から色々な資料を頂き、毎回熱心に教えて頂くので感謝しています。新宿は、皆明るく、和やかな雰囲気、居心地が良い教場です。当面出来るだけ大きな声で吟ずることを目標に、その内自分なりの味が出ればと期待しています。

濱口 正顕氏（七月入会）

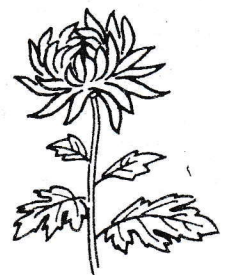
山仲間の波治さんの、紹介で教場の練習を見学。詩吟といえば、これまで格式と奥深さが敷居を高くさせていたが、教場の光景を目の当りにして、先入観が一変した。橋本・酒井先生の誉め言葉にくるまれた、優しく真摯な指導で、皆伸び伸びと積極的に学び、経験豊かな先輩の軽妙洒脱な会話が教場の雰囲気柔らかく包みこんでいた。

一年未満の方が多くそうだが、その精進と熟達ぶりに驚き、私も早くその心域に達したい所存です。

大堀 昭二氏（七月入会）

弁護士として「生涯現役」を座右の銘としています。気持ち七〇、八〇働き盛りですが、実際は身体があちこちに不安が出て、さてと思案の折、学生時代からの親友酒井帆船氏から詩吟を勧められました。入会案内に「元気で長生きの秘訣！お腹の底から、力一杯声を出せば：あり、これだと直感して飛び込ん

だ次第です。



編集後記

熱い今年の夏に、又々大地震が発生した。中越沖地震。ここ数年中越、鳥取、福岡、能登と日本海側で大きく揺れている。和式の土壁、和瓦の家が倒壊し、高齢の被害者が出た。幸い火災は柏崎原発の一件のみであったが、原発の火災で消火体制のあまりの粗末さには心が凍る思いがした。設計段階の計画の安易さが露呈され、大災害にならなかった事は幸運では済まされないだろう。被災された方々へお見舞い申し上げ、一日でも早く普段の生活へ戻るようお祈りします。

関東大震災から、今年で八十五年。太平洋側でも、何時発生してもおかしくない時期に達していると言われているが、今一つ緊迫感が乏しい感じが気になります。

本号の新会員紹介十八名は、これまでの最多数十二名を大きく上回る記録となっています。この方々が続けて下される受け入れ側の体制について、手落ち無く取組みましょう。（八田）